

◇船舶事故種類別隻数

事故種別	隻数
機関故障	10隻 (+3隻)
乗揚	8隻(+1隻)
衝突(船舶)・衝突(物件)	5隻(-7隻)
浸水	4隻(+4隻)
火災	2隻(±0隻)
推進器障害	2隻(+2隻)
その他	2隻(-8隻)
計	33隻(-5隻)

※()内値はR5年比

令和6年の船舶事故の多くは、“小型船舶”の“機関故障”によるもの

◇機関故障症状・原因例

症状	原因
セルモーターが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーターミナル部が割れ、接続不良となっていた。 ・発電機の経年劣化によりバッテリーへの充電がなされていなかった。
クラッチが入らない	<ul style="list-style-type: none"> ・固着していたスロットルレバーを無理に動かし、リモコンケーブルが破断した。 ・配管にピンホールが生じ漏油していた。
機関停止	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーチャージャーが固着し、安全機構が働いた。 ・キャブレターのネジが脱落し不具合が生じた。
排気管の溶損	冷却パイプ詰まりにより、排気管の冷却が行われず排気熱で排気管が溶損した。
機関の異常	発電機の固着により一部機構に異常が生じた。
機関が始動できない	船外機のリコイルスターターの紐が内部で絡まっていた。
回転数が上がらない	燃料タンクに異物が混入し、燃料管が詰まっていた。

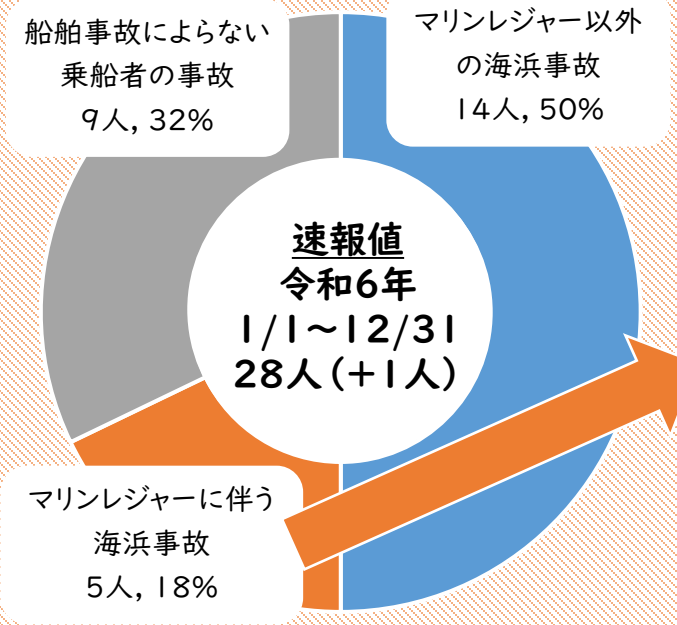
機関故障の原因の多くは、**整備不良・老朽衰耗**

発航前の点検、整備業者による定期点検を行いましょう。



発航前には
こちらをチェック!





◇マリンレジャーに伴う海浜事故内訳

活動内容	隻数
釣り中	3人 (-2人)
トーイング遊具中	1人(+1人)
遊泳中	0人(-1人)
その他	1人(±0人)
計	5人(-2人)

※()内値はR5年比

マリンレジャーに伴う海浜事故の多くは“釣り中”に発生しています

◇釣り中の事故事例

- ・瀬渡し船が瀬渡しした事故者を迎えに向かったところ、磯上に事故者の姿が見えなかったため、海上保安庁に通報し捜索した結果、事故者は海上で発見され、死亡が確認されたもの。
- ・瀬渡し船により瀬渡し後、事故者と同行者で別れてそれぞれ釣り場の確認を行い、合流しようとしたところ、事故者の姿が見当たらなかったことから瀬渡し船に連絡し捜索した結果、事故者は海上で発見され、死亡が確認されたもの。
- ・家族からの「釣り場に行ったきり帰宅しない」旨の連絡により捜索をしたところ、釣り場に釣り道具が残され、付近海域にて海中転落していた事故者が発見されるも死亡が確認されたもの。
- ・事故者は防波堤で釣り中、防波堤を超える打ち波により海中転落したもの。

釣りをする際に守るべき4つのポイント

- 無理をしない
事前に天気や潮汐の確認、体調を考慮して無理をしないようにしましょう。
- 単独行動をしない
万が一海中転落した場合、仲間に救助してもらえるため、助かる確率が高まります。
- 釣行計画を第三者に伝える
釣り場、帰宅時間を家族などに伝えておけば、救助時間の短縮に繋がります。
- 適切な装備を整える
救命胴衣の常時着用、磯靴など適した靴を履くことでリスクを減らすことができます。



釣りに行く前には
こちらをチェック!

